

園生活の保護者の振り返り支援を目的とした デジタルストーリーテリング・ワークショップの開発と評価

Development and Evaluation of Digital Storytelling Workshop that Aims to Promote Reflection
Children's Growth for Parents in Japanese Kindergarten

佐藤 朝美 Tomomi SATO 愛知淑徳大学 Aichi Syukutoku University	松河 秀哉 Hideya MATSUKAWA 東北大学 Tohoku University	椿本 弥生 Mio TSUBAKIMOTO 東京大学 The University of Tokyo	荒木 淳子 Junko ARAKI 産業能率大学 SANNO University
中村 恵 Mugumi NAKAMURA 畿央大学 Kio University	松山 由美子 Yumiko MATSUYAMA 四天王寺大学短期大学部 Shitennouji University Junior College	堀田 博史 Hiroshi HOTTA 園田学園女子大学 Sonoda Women's University	

〈あらまし〉本研究では、子どもの成長や学びについて深く考えていくために、園生活や活動の意義、園や先生の役割、さらに保護者の成長と園との関連について保護者が振り返る支援を行うワークショップを開発する。園生活の写真を用いてデジタルストーリーテリングを行う活動をデザインし、実践した。評価の結果、子どもの成長だけでなく、保護者自身の振り返りが促されている様子がみられた。また保育者からは、本WSのDST作品や保護者の対話に対して、「子どもを共に育てる」気持ちを共有できたというポジティブな見解が示された。

〈キーワード〉 幼稚園、デジタルストーリーテリング、リフレクション、ワークショップ

1. はじめに

本研究では、子どもの成長や学びについて深く考えていくために、園生活や活動の意義、園や先生の役割、さらに保護者の成長と園との関連について自身が振り返る支援を行うワークショップ（以下WS）を開発することを目的とする。

園での経験と幼児の成長に関する調査（ベネッセ教育総合研究所 2016）では、園生活を通して、子どもの成長実感が高いほど、園の満足度も高いという結果を報告している。さらに、園からの情報を子育ての参考にしているほど、保護者自身の成長実感が高いという。ここでの親の成長実感は、「子どもの得意なことやよさに気づいた」「自分の視野が広がった」等が項目であり、園生活や保育を理解することで得られることが想定される。

そこで本研究では、園生活の写真を用い、保護者が保育における子どもの成長を考え、保育の意味を考える活動を支援するWSを開発し、その効果を評価する。

2. ワークショップの開発

本WSでは、「iアルバム」に蓄積された写真を用いてデジタルストーリーテリング（以下DST）の活動を行うものとする。「iアルバム」は、

幼稚園と家庭が連携するために開発されたシステムで、写真とともにクラスや個人情報を共有できる（松河ら 2002）。導入園では、システムによる連携の効果や課題が長期にわたり蓄積されている。

本WSの活動は2時間で構成している。3日間（1日目：年長4組、2日目：年中5組、3日目：年少3組と年長2組）に分けて実施した。タイムスケジュールは以下の通りである（表1）。まず、前半のワーク1～4で子どもの成長、親自身の成長、園や先生からの影響を振り返り、後半にDST制作を行う。DST制作は、当時までにiアルバムから選択した写真（6枚程度）を用い、iPadアプリFilmStory¹⁾で制作してもらった。

表1：タイムスケジュール

時間	ワーク	内容
8分	挨拶	WSの趣旨説明と参加者の自己紹介
13分	ワーク1	子どもはどのような園の活動をしたか？について自身でワークシート記入後、全体で共有
13分	ワーク2	園生活で子どものどのような成長を感じるか？について自身でワークシート記入後、全体で共有
13分	ワーク3	園生活で親自身どのようなことを感じるか？について自身でワークシート記入後、全体で共有
13分	ワーク4	園や先生にどのようなことを感じるか？について自身でワークシート記入後、全体で共有
40分	DST	アプリの操作説明とムービー制作
20分	鑑賞会	各自のDST再生と感想の共有

3. ワークショップの評価

本 WS の評価は、事前と事後の質問紙調査、WS 中の参加者のプロトコル、デジタルストーリーテリングの作品、保育者インタビューのデータから行う。

WS 参加者 15 名中、回答が得られた 12 名の質問紙の事前事後の結果が表 2 である。

表 2 事前事後の比較

質問項目	事前		事後	
	平均値	SD	平均値	SD
【1】子どもの成長実感	5.00	.00	5.00	.00
【2】あなた(保護者)の成長実感	3.75	.60	4.27	.62
【1】園での経験がお子さまの成長につながった	5.00	.00	5.00	.00
【2】園での経験があなた(保護者)の成長につながった	4.17	.69	4.45	.66
【3】先生の言葉かけや配慮がお子さまの成長につながった	4.92	.28	5.00	.00
【4】先生の言葉かけや配慮があなた(保護者)の成長につながった	4.33	.62	4.55	.66

保護者自身の成長実感が上がった理由としては、WS の活動を通じて、子どもの成長を振り返るだけでなく、保護者自身についても振り返ることができたからと考える(表 3)。アンケートの自由記述では、「きっといろいろなことを私も成長させてもらっているのかもしれませんが、いざとなると、なかなか思いつきません。」(事前)に対し、「他の保護者の方々と思い出や意見等を共有することで色々な視点をもって振り返ることができました。」(事後)がみられた。

表 3 DSTWS について

質問項目	事後	
	平均値	SD
【1】お子様について、1年を振り返ることができた	5.00	.00
【2】あなた(保護者)について、1年を振り返ることができた	4.55	.66
【3】デジタルストーリーテリングを再度行いたいですか？	4.82	.39
【4】ムービー作品は満足するものとなりましたか？	4.45	.66

表 4 にループリック評価の結果を示す。子どもの成長についてはどの作品についても言及があり、成長項目については、「園での野菜収穫により、嫌いな野菜も食べられるようになった」、「お遊戯会でお友達と一緒に堂々と出来た」、「かるた大会で最善を尽くして挑んだ」等、選択した写真

表 4 DST 映像の評価

カテゴリ	得点			平均	SD
	3	2	1		
子どもの成長	子どもの成長について、聴衆の予想を上回るような深い内容がある。	子どもの成長について、かろうじて内容がある。または、内容が具体的でない場合がある。	子どもの成長について、まったく内容が伝わらない。または、内容が抽象的である。	2.6	.62
子どもの成長項目	子どもの成長について、身体的、内面的、技能的等の成長について3つ以上触れていた	子どもの成長について、身体的、内面的、技能的等の成長について2つ以上触れていた	子どもの成長について、身体的、内面的、技能的等の成長について1つは触れていた	2.6	.72
自身(保護者)の成長	自身(保護者)の成長について、聴衆の予想を上回るような深い内容がある。	自身(保護者)の成長について、かろうじて内容がある。または、内容が具体的でない場合がある。	自身(保護者)の成長について、まったく内容が伝わらない。または、内容が抽象的である。	1.1	.35
聞き手(WS参加親子)への配慮	聞き手(WS参加親子)への配慮がきちんとデザインされている。対象の聞き手に合わせて、言葉や音や写真が選ばれていることと感ずる。	聞き手(WS参加親子)に対し、いくつかの配慮がデザインに見られる。言葉・音・写真の選択について説明する事が難しいと感じる。	DSTの作者は、聞き手(WS参加親子)に対し配慮したり、ストーリーに興味を持たせる必要性があることに気付いていない。	2.1	.74
	総合得点			8.5	1.84

についての活動と、そこから読み取れる子どもの成長についてのナレーションが付加されていた。保護者自身の成長については、「ママも一緒に成長しているよ」等 2 作品のみ言及があったものの、他作品にはみられなかった。写真 6 枚で 1 分半程度の作品という制限もあったことも要因であると考えられる。聞き手へのメッセージにおいては、「これからも、何事にもがんばります！」等、子どもが皆に宣言するメッセージや、「パパとママはあなたを誇りにおもうよ！」等、親から子へ伝えるメッセージがあった。

保育者インタビューでは、DST 作品については、全員が「自分が撮影した写真が作品になることが嬉しい」とコメントした。年中担任は、「親子によって振り返るポイントが異なるのが興味深かった。学期ごとにテーマを設けると面白いかもしれない」との発言があった。また、保護者が園活動をどのように捉えているか聞く機会が少ない状況のため、WS 対談の抜粋は新鮮で、かつ、保育への自信に繋がるなどの発言があった。

4. 考察と今後の課題

以上により、保護者が子どもの成長や学びについて深く考え、保護者の成長と園との関連について振り返るための WS を開発するという目的を達成できたと考えられる。しかし、DST 作品自体には保護者自身の成長実感に対する表現には至らなかったという課題、多忙で WS への参加等が難しい保護者に対し、日常、容易に振り返りのできる環境を構築していくという課題が残る。

注

1) 株式会社メタップスワンが提供するアプリ。

謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP17K01155 の助成を受けたものです。

参考文献

- ベネッセ教育総合研究所 (2016) 園での経験と幼児の成長に関する調査
<https://berd.benesse.jp/jisedai/research/detail1.php?id=4940> (2018.02.14 参照)
- KEYSER, J. (2017) From Parents to Partners: Building a Family-Centered Early Childhood Program. Redleaf Press.
- 松河秀哉, 今井亜湖 (2002) インターネットを用いた幼稚園と家庭の連携システムの開発と評価. 日本教育工学雑誌 26(1), pp.45-53.